



# くれよん

2023年 1月15日 第164号  
NPO 法人町田市学童保育クラブの会  
所在地 町田市中町 1-19-5  
大貫ビル 202  
電話 042-794-7235  
広報担当 発行



## 新年のご挨拶



昨年中は当法人の運営に、ご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。広報紙くれよんでは、引き続き法人の活動や運営、各学童保育クラブの様子を発信してまいります。どうぞよろしくお願い致します。



## 全国学童保育研究集会の報告

10月29日(土)、30日(日)に全国学童保育連絡協議会が主催した、『全国学童保育研究集会』がオンラインで行われ、今年度は総勢4,575名、当法人からは28名の参加がありました。全国の支援員や保護者の方など様々な立場の方が参加し、学童保育クラブや子どもたちについて理解を深め、語り合い、学び合う場が全国学童保育研究集会です。

### ☆参加者の声☆

#### 第2分科会 分散会⑤ 高学年にとっての学童保育

高学年は放課後の時間が短くなっており、さらに勉強が難しくなり人間関係が複雑化し、緊張感や疲労感をより強く感じる時期にもなっている。また、成長期に入り自分の思いを素直に打ち明けられない葛藤や、甘えたいという思いを抱えているため、支援員がどのようにして高学年と関わっていかかが重要となる。高学年だからできる役割や活動を提案し、学童保育での生活を豊かにすること、子どもたち自身がやってみようかなと前向きになるような働きかけを支援員が行い、高学年の自主性に任し信頼していることを伝えていくことが大切である。この研修で学んだことを日々の保育に活かしていきたい。

金井クラブ 及川



#### 目次

- 1面：全国学童保育研究集会の報告
- 2面：あの頃を振り返って～保護者の子ども時代のエピソード～
- 3面：「いのちの広場」学習会の報告
- 4面：学童児の投稿コーナー・支援員の子ども時代

#### 正会員・賛助会員募集

会員を募集しております。当法人にご賛同いただける方は、法人事務局までご連絡ください。

個人正会員 一口3000円以上

個人賛助会員 一口1000円

問い合わせ先：042-794-7235（法人事務局）

#### 今後の予定

2月11日(土) 運営委員会

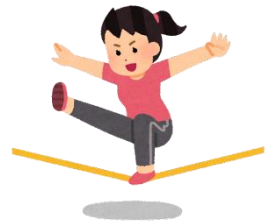
2月25日(土) 保護者会との懇談会

## あの頃を振り返って ～保護者の子ども時代のエピソード～

昔は流行っていたのに今はない・少ないというあそびや物があります。お子さんから見ると、保護者の方々が遊んだものや好きだったことは、新鮮に感じることもあるかもしれません。それは、お子さんにとって新しい発見になることもあります。今回は、保護者の方々がどんなことをして過ごしていたのかをお子さんとの話題にしてもらえたらと思い、保護者の方々の子ども時代についてご紹介します。

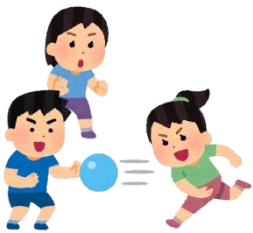
私の子ども時代に人気のあったあそびの一つにゴム段・ゴム跳びがあります。外あそびでも室内あそびでもOK。人数が多ければペアで遊び、適当なポールがあれば一人でもできます。定番の跳び方、新技の挑戦など遊び方やルールをその場、その時に自分たちで考えました。輪にした平ゴムをポケットに忍ばせ、時間があればいつでもできるようにスタンバイしていたものです。平ゴムを足で引っかけたり跳んだりするのでゴムが切れることも度々ありました。何個も結び目を作り頑張るのですが、どうしてもやりにくく、また平ゴムが手に入らず……。そんな時は輪ゴムをゴム段ができる長さまでみんなでつなぎ編みにしたこともありました。あれだけ夢中になっていたのに、いつの間にか遠ざかってしまいましたが、思い出した今……。娘と挑戦してみたいです。

鶴川学童保育クラブ 保護者



私の子ども時代は、今のように携帯電話やスマートフォンがある時代ではなかったので学校から帰る前に友達と約束して公園で遊んだり、約束し忘れた場合は家に帰ってきてから友達に電話して「今日遊べる？」なんて聞いて、都合が合えばどちらかの家に行き、人形で遊んだりしていました。時には女の子同士でお菓子作りをしてお菓子パーティーをしたり、お誕生会をひらいたりもしていました。ある時は放課後に担任の先生も交えて校庭でドッジボールやバスケットボールをしました。遊びに夢中になりすぎて真っ暗になった道を友達の家から自転車をすっ飛ばして帰ったことも多々ありました。時代は変わっても今私が子ども達に「早く帰りなさい」と注意することがありますが、いつまでも遊びたいと思う気持ちは変わらないですね。

わんぱく学童保育クラブ 保護者



私は小学生の時、とにかく運動が好きな子どもでした。クラブではミニバスケットボールをやり、習い事は水泳とテニスをやっていました。水泳とテニスは2ヶ月に1回行われる進級テストを1回で合格したくて、学校がお休みの土・日にたくさん練習をしていました。小学校の時、休み時間に流行っていた遊びはおにごっこや一輪車に乗ることなどでした。一輪車は乗れるようになるまでたくさん練習をし、時には転び痛くて辛いこともありましたが、負けず嫌いであった私はあきらめず努力し続けました。いろいろなことにチャレンジをし、一つ一つできるようになった時の達成感とねばり強く何事も頑張れば必ず結果がでるという経験ができ、今もそのことは自分の力になり続けており、大切にしています。

金井学童保育クラブ 保護者





## 『いのちの広場』学習会の報告



12月10日（土）に函師小学校体育館にて、法人が運営する13学童保育クラブの保護者とお子さん、支援員を対象に法人主催の学習会『いのちの広場』が開催されました。当日は、63名の参加がありました。

### 開催の目的

『いのちの広場』は、保護者と支援員が共に学び考える場を作り、子どもたちがいのちの大切さを知り自分を大切に、他の人へも思いやりの心を持つ機会とすること、参加された方のご家庭でもいのちの大切さを親子で共有していただくことを目的として開催しました。今回は、函師学童保育クラブ保護者会会長三枝泉さんによるコーディネートのもと、町田市内で助産院を開院している野口としの先生をお招きしました。



野口としの先生

### 学習会の様子

はじめに、人間の身体といのちの誕生を科学的に学ぶことをテーマに、身体の特徴やいのちが産まれるまでの過程を学びました。助産師さん手作りの赤ちゃんの人形を用いて、成長期ごとの大きさや重さを体験する場面では、子どもたちは人形を照れくさそうに受け取りながら、「生まれる前はこんなに小さいんだね。」「こんな大きさになるんだ。」と体感し、保護者の方々や支援員は、自身の子どもが誕生した時のことを振り返っていました。野口先生は、「生まれてくることは、奇跡。あなたのいのちは奇跡です。」とスライドを交えながらお話してくださいました。

次に、『プライベートゾーン』と『防犯の標語』について学びました。どちらもいのちを守るために大事なことです。野口先生が子どもたちにもわかりやすい言葉で、イラストを使いながら教えてくださいました。



### 会場より

先生のお話を一緒に学んだことで、参加していた保護者の方と子どもたちから、「家に帰ってから親子でいのちについて話したいと思いました。」「『あなたが大切』という先生の思いが伝わってきました。」という声が聞かれました。いのちが受け継がれ、一人ひとりの人間が存在していることを改めて学ぶことができ、学童クラブで子どもたちへいのちの大切さや一人ひとりが尊い存在であることを、伝え続けていきたいと思いました。

法人では、今後も保護者と支援員を対象に学び合える学習会を実施していく予定です。





# 学童児の

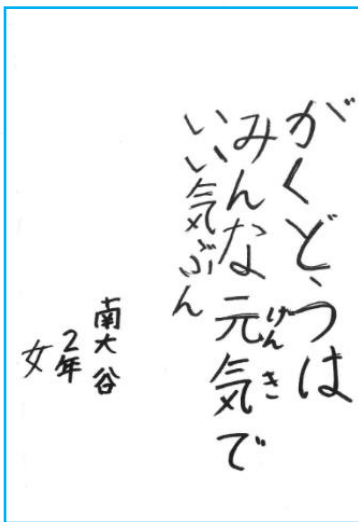
## 投稿コーナー



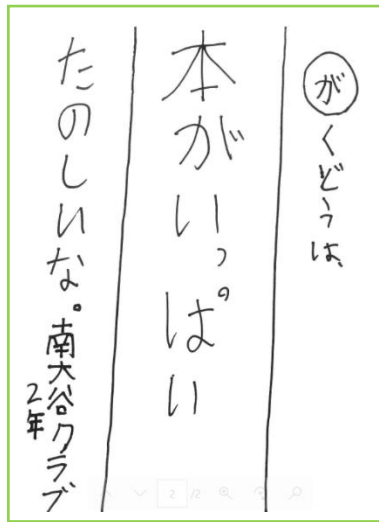
今年度は13クラブの子どもたちによる学童クラブでの様子をイラストやつぶやき、クイズ、詩などを通して伝えていきます。また、支援員による子ども時代のエピソードも掲載していきます。子どもたちの思いとともに楽しみください。

# イラスト

# せんりゅう



南大谷学童保育クラブ



大戸のびっ子学童保育クラブ



## 支援員の子ども時代

私は好きなことには熱中するタイプで、小学生のころは工作・ぬりえ・一輪車が好きでした。特に一輪車は友達と一緒に手を繋いで乗ったり、メリーゴーランドという技をしたり、その時間がとても楽しかったことを覚えています。おしゃべりもとても好きで、母や友達にその日の出来事や思ったことを逐一話していました。今思い返すと、自分を見て欲しいというアピールだったのだと思います。自分のことを誰かに話し、受け止めてもらうことは私にとって大きな安心材料でした。日々、子どもたちから「見て！聞いて！」と沢山の話があります。気持ちを温かく受け止め、安心できるような存在になれるよう努めていきたいと思っています。



高ヶ坂けやき学童保育クラブ 駒野